

第55回日本写真学会「写真好き」のための定例講演会
JCII フォトサロン -昭和初年の報道写真は語る-「昭和は遠くなりにけり」
ギャラリートーク & 東條會館写真研究所 現像暗室体験ツアー

【日時】2025年12月23日(火) 13:30~15:30

1部 13:30~14:30 JCII フォトサロン 昭和100年記念展示 ギャラリートーク

2部 14:40~15:30 東條會館写真研究所 展覧会鑑賞と現像・プリント暗室見学

【主催】一般社団法人 日本写真学会「写真好き」のための定例講演会実行委員会

【会場】1部 JCII フォトサロン アクセス→ <https://www.jcii-cameramuseum.jp/map/#museum>

2部 東條會館写真研究所 JCII から徒歩で移動(5分程度)

【講演会形式】展示会場でのギャラリートークと現像暗室の見学

【定員】20名

【プログラム】

13:20~ 集合・受付: JCII フォトサロン前

13:30~14:30 開会挨拶・フォトサロン写真展 ギャラリートーク

14:30~14:35 移動

14:40~15:30 東條會館写真研究所 井上佐由紀「はじまりと終わりに見る色を、私は知らない」展覧会鑑賞と写真展暗室見学

【参加費】会員は無料

第一部

JCII フォトギャラリー 一昭和初年の報道写真は語る—「昭和は遠くなりにけり



ラジオで一家団欒（昭和11年7月2日、同盟通信社配信）

写真展概要 *抜粋

JCII フォトサロンでは、昭和100年記念展示「一昭和初年の報道写真は語る—昭和は遠くなりにけり」を開催いたします。

本展は、昭和元年から100年を記念し、古写真収集家・石黒敬章氏のコレクションから、戦前の珍しい報道写真80点を展示いたします。

現在、戦前の報道写真を目にする機会は非常に限られています。昭和初期から戦時中にかけて新聞社や通信社が蓄積していた膨大な写真資料は、戦時中の激しい空襲により多くが焼失しました。さらに終戦直後、戦争責任の追及を恐れた報道機関が、残った写真を焼却処分することも相次ぎました。そのため、昭和初年の報道写真は極めて貴重な資料となっています。

今回展示する写真群には、新聞社や通信社が配信した報道写真のほか、「写真ニュース」と呼ばれるメディア形式の資料も含まれています。2025年は昭和元年から100年という記念すべき節目の年です。今や昭和という時代は私たちから遠く離れた過去となっていますが、これらの貴重な報道写真に込められた社会の動きと時代の空気は、今もなお鮮やかに私たちに語りかけています。統計や文字では表現しきれない生きた歴史の証言が、一枚一枚の写真に刻まれているのです。

石黒敬章（いしごろ けいしょう）

昭和16年（1941）生まれ。昭和41年（1966）に「石黒コレクション保存会」設立。古写真を中心に、骨董品などに関する著書を多数執筆し、展覧会の企画も行なう。主な著書に、『下岡蓮杖写真集』（新潮社、1999年）、『明治・大正・昭和 東京写真大集成』（新潮社、2001年）、『幕末明治の肖像写真』（角川学芸出版、2009年）などがある。日本写真芸術学会評議員。

日本カメラ財団常務理事 田村 昌彦 様、JCII フォトサロン 櫻井由理様、菅原亜沙子様その他フォトサロンの皆様の温かいお出迎えから、JCII フォトサロンギャラリートークが、始まりました。今回のギャラリートークは、本展示の古写真コレクターの石黒氏との展示依頼から何度かのインタビューから展示作品の選考・展示方法・図録作成まで担当されたJCII フォトサロン文化部の櫻井さんからの作品一つ一つに対する時代背景、意義、貴重性などの解説付きのギャラリートークと質疑が行われました。



JCII フォトサロン櫻井さんの解説風景

JCII フォトサロンでの作品展示とギャラリートーク風景



【参加者からの声】後日メールで頂きました。

・講演会、見学会ではお世話になりました。

普段まず見れない施設の見学と写真展は、大変興味深かったです。

特に「昭和は遠くなりにけり」の展示作品等を説いていた大いに櫻井さんの解説は、キャッシュオンだけではわからない部分も語られ、今までの「写真好き」の企画の中で、一番良かったと感じています。

次の企画も楽しみです。ありがとうございました。(K.K)

・作品も解説も素晴らしい！大満足しました。(O.Y)

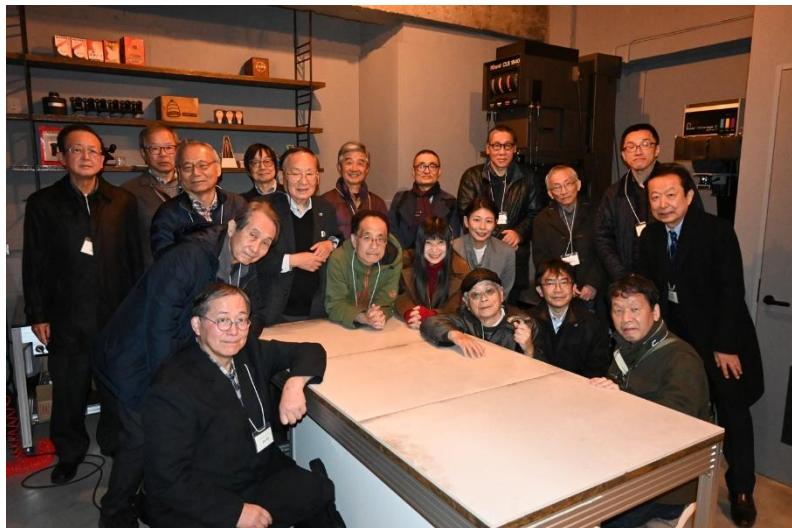
第二部

東條会館写真研究所概要 *抜粋

東條会館 写真研究所 <https://www.tokyoartbeat.com/venues/-/tojo-photo-lab>

2023年に創立111周年を迎えた株式会社東條会館が、写真館創立当時の背景を色濃く残す建物を「東條会館写真研究所」として、ギャラリーをオープン。研究所として感材や印画紙の研究をはじめ、写真館の数多くの現像・プリント・修正作業を行ってきた暗室やスペースを利用し、作品の展示を行う。先人たちが残した技術と想いを伝え続ける作品の紹介をはじめ、ラボ・ギャラリー・ワークショップなどを運営する。

株式会社東條会館の代表取締役 東條久美子様と写真研究所スタッフのお出迎えと東條会館写真研究所の展覧会『井上佐由紀「はじまりと終わりに見る色を、私は知らない』を特別に今回参加者に解説付きで紹介頂くと共に、写真研究所で現在も稼働中の暗室設備の見学を行いました。



東條会館写真研究所で、社長も入って参加者全員での記念撮影



東條会館写真研究所全景



『井上佐由紀「はじまりと終わりに見る色を、私は知らない』展覧会の作品の一部

【参加者からの声】 技日メールで頂きました、

・大変貴重な経験をありがとうございました。

特に、東条会館写真研究所の見学は、写真館暗室の見学は初めてで大変参考になりました。

ぜひまた、様々な企画をお願いいたします。

できる限り、参加させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。とりあえず、お礼のみにて失礼いたします。(K.W)

・現像薬品や調合用備品に加えて、DURST や OMEGA の大型引き伸ばし機など若い頃使った設備懐かしく、若いころを思い出しました。それでもきれいに保管・維持していることに感心した。(G.K)

・東條会館の歴史を感じる一日でした。ありがとうございました。(S.T)

定例講演会実行委員会： 実行委員長：小林裕幸（千葉大学名誉教授）

委員：鈴木博文(ニコン)、中野敬子(東京都写真美術館)、西垣仁美(日本大学)、松澤良紀(OMDS)

幹事：桑山哲郎（千葉大学）、 事務局：山岸治（日本写真学会）

中に含まれる文、写真は日本写真学会に属します。

COPYRIGHT © 日本写真学会 ALLRIGHT RESERVED

一般社団法人日本写真学会〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内